



平和や命の大切さをいろんな視点から捉え、広げていく「種」が「ピース・シード」です。世界中に笑顔の花をたくさん咲かせるため、中学1年から高校3年生までが自らテーマを考え、取材し、執筆しています。

被爆地広島は秋の修学旅行シーズンのピークです。平和記念公園の原爆の子の像の前や原爆慰霊碑の周辺では毎日、修学旅行生にぎわう光景を見かけます。広島市には全国の小中学校や高校から年間30万人を超える子どもたちが修学旅行で訪れます。実際にヒロシマを歩き、原爆の爪痕に触れて何を学ぶのでしょうか。ジュニアライターは県外からやってきた中学生と一緒に原爆資料館を見学し、被爆者の証言を聞きました。修学旅行生は事前に戦時中の人々の暮らしや原爆の被害について、かなり勉強してきました。地元で暮らす私たちも、真剣に学ぶ同世代の姿に平和を学ぶ大切さを感じました。そして修学旅行コースのアイデアを、取材を担当したジュニアライターで考えてみました。

# 第49号 修学旅行生と学ぶ原爆



原爆資料館で、8時15分まで止まった腕時計を見る加納中の生徒たち (撮影・目黒美貴)

## 岐阜の加納中と資料館を見学

### 事前学習・活発な討論驚き

岐阜市の加納中の3年生180人は3日間、修学旅行で広島市内に滞在し、「生きろ」をテーマに平和学習に取り組みました。班別行動では被爆建物や放射線影響研究所などを回った後、平和記念公園で碑巡りをしました。ジュニアライターは原爆資料館の見学に同行しました。加納中の生徒たちは、焼け焦げた三輪車やブラウスなどの遺品や、背中にやけどを負った被爆者の写真の前で立ち止まり、感想を言い合いながら、ゆっくり見えていました。ぼろぼろになった少年の服に見入っていた下美優さんが活発なことにも驚きました。小嶋大介教師(42)は「平和の怖さを感じた」と振り返り、被爆者の思いや傷を心で感じてほしい」と説明してくれました。平和学習を当たり前のように感じていたけれど、彼らの姿に刺激を受け、地元で学ぶ私たちも意識を変えたいといけな」と思いました。(高1平田佳子、中3フイリックス・ウオルシュ、中2森本柚衣)

## 真っすぐな思い 刺激を受けた

### 最近のトレンドは？ 民泊と組み合わせ

広島市観光政策部の原翔一(1)年(約33万5千人)でした。一郎さん(26)に、ヒロシマ修学旅行について聞きました。市4千校以上が広島を選んでの統計では修学旅行生の数は1980年代後半の約57万人で、平和記念公園と原爆資料館をピークに減少し、2015

### 広島市担当者に聞く

も増えているそうです。04年度から市は誘致活動を強化し、毎年約800校を訪問します。重点地区で学校関係者向けの平和学習セミナーも開いています。被爆者の高齢化が進む中で被爆体験継承者の講話や、「平和学習講座」の提供も始めました。(中3目黒美貴)

### ジュニアライターが提案します 2泊3日 修学旅行プラン

さまざまな形で原爆と平和を学びます 高2 松崎成徳

- 初日 平和記念公園の碑巡り、おりづるタワー、高校生の原爆劇
- 2日目 平和学習講座、被爆体験講話、原爆資料館見学
- 3日目 大久野島毒ガス資料館

福山からスタート、歩いて平和を考えます 中3 目黒美貴

- 初日 ホロコースト記念館、福山市人権平和資料館
- 2日目 本川小、袋町小平和資料館、原爆資料館見学、碑巡り、被爆体験講話
- 3日目 本通り、おりづるタワー、お好み焼き、路面電車

被爆樹木から復興の力を体感します 中2 森本柚衣

- 初日 原爆資料館、被爆アオギリ、本川小
- 2日目 レストハウス、爆心地、袋町小、中国軍管区司令部跡、被爆クスノキ、広島通信病院
- 3日目 本通りで買い物



朴さん(手前右)の被爆証言を聞く石神井南中の3年生 (撮影・平田佳子)

## 東京の石神井南中と被爆証言を聞く

### 必死にメモ取り 考える姿心強い

東京の石神井南中の3年生123人は原爆ドーム前の旅館で、在日韓国人被爆者の朴南珠さん(85)の証言を聞き、私たちが加わりました。爆心地から約1.9km地点で路面電車の車内で被爆した朴さん。焼け野原になった街に恐怖を感じたことや、人が虫けらのように死んだことを涙ながらに語り「たかさんの犠牲と苦しみの上に築かれた平和を守って」と訴えました。生徒たちは貴重な「生の声」に必死でメモを取っていました。証言が終わった後は友達同士で感想を話し合っていました。あの日の光景を想像し、記憶に刻んだのだと思います。一調べただけでは分からない被爆者の気持ちや伝わり、心が痛んだと田中幸寛さん(14)・元安川で亡くなった学生がたかさん(14)は72年前、原爆が本当に降ってきたことを実感した。朴さんたちの苦衷があるから私たちは今、普通に暮らせる」と話していました。(高1川岸言統、中3目黒美貴)

## 平和学習 新たな試み

### 動画やクイズ交えた講座



広島市の平和学習講座を受ける修学旅行生

修学旅行の誘致も視野に入られて、広島市は2012年度から「平和学習講座」を始め、担当する原爆資料館啓蒙課の岡崎裕美さん(25)の話を聞きました。被爆者が高齢化する中、次世代にヒロシマを継承する新しい取り組みです。対象は、小学生から高校生まで。子どもが、市内の学校が中心で修学旅行の利用はまだほとんどありません。岡崎さんは「もったいない。資料館にある遺品の写真や、米国の核実験の動画、クイズを交えながら原爆や核兵器を取り巻く現状を解説してもらったことが大切」と話していました。(高2松崎成徳)